

2019年2月26日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 508

オープンアクセスの新局面―

電子ジャーナル問題の最新動向と展開

～ 学術出版社・研究者／学会・助成機関・政府／大学・図書館 ～

ご参画・ご派遣のお願い

【企画協力：学校法人 城西大学】

学術誌（ジャーナル）への論文発表と閲覧は研究者にとって必要不可欠です。しかしながら、価格は、この30年余で5～6倍に高騰しています。中進諸国における研究力強化及びジャーナル電子化による掲載論文の飛躍的増大は、世界の3大出版社への寡占をもたらした定常的な上昇が進行しております。大学のみならず、国家レベルでの研究インフラの危機であります。

電子ジャーナルのオープンアクセス（OA）をめぐる欧米諸国の最新動向を踏まえ、日本の戦略的対応策の構築が急務といえます。しかしながら、研究者・図書館関係者の認識に比べ、残念ながら、“学術情報システムの現在”についての大学経営陣の危機意識は弱い状況にあります。

また、電子書籍・データの増大の中で、国・自治体及び大学の電子図書館・アーカイブの本格的な整備拡充が急務であります。

第1講は、船守美穂氏（NII）から、電子ジャーナルを巡る欧米と日本の最新動向について、出版社とのビッグディール（パッケージ契約）の怖い罠、契約交渉の難しさ、助成機関からのOA義務化、グリーンOAの限界・効用とOAポリシー、ゴールドOAの限界・効用と論文出版料（APC）の負担、OA2020モデル等を踏まえ、今後の学術情報流通の展望について論展いただきます。

第2講は、国立大学財務・経営センターの最後の理事長職を担った豊田長康氏から、大学経営の実態及び研究現場からの徹底したリサーチによる研究力失速の分析、そして科学立国再生への設計図～学術情報のオープンネスとイノベーション・エコシステムへの提言について論展賜われます。

第3講は、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）は国公立大学図書館協力委員会と国立情報学研究所「連携・協力推進会議」で構成されており、運営委員長の市古みどり氏から、学術雑誌の購読モデルからOA出版モデルへの取り組みの全体状況について、ご報告いただきます。

第4講は、電子出版研究の第一人者である植村八潮氏から、印刷からデジタルへのパラダイム転換となる電子書籍市場のホット状況、著作権法改正とデジタル読書の動向、そしてネットワーク情報資源と電子図書館・アーカイブズの今後の展望について論展いただきます。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/190322.pdf>